2017年7月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第486号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

奈良アイルランド語研究会のメンバーで出版社を設立

アイルランド語とアイルランド文学をひたすら紹介するために

文／アイルランドフューシャ奈良書店　代表　荒木孝子

『トーィン　クアルンゲの牛捕りとクーフリンの物語』（コルマーン・オラハリー著／A4判・本体価格2300円）などアイルランドフューシャ奈良書店の刊行物

出版社設立の経緯

アイルランド語研究会は現在7人の構成員で、1ヶ月に2回から3回集まって、研修を積んでいる。そもそもは、荒木が講師をしていた天理大学・奈良新聞社共催の「サテライト語学教室・アイルランド語」で学んだ1期生から始まった研究会である。日本から遠く離れた国アイルランドについては、日本ではあまり関心がない、というよりよく知られていない。その言語、文学であればなおさらである。奈良という地方都市で7名もの受講生が集まったのは奇跡であった。奇特な方々で、講座が終わってもさらに学びたいとの望みに沿って、絵本でアイルランド語を学ぶことになった。その後、やめられる方もいたが、また新しく3名の方が参加した。

数冊訳し終えて、考えた。この成果を何らかの形にして残すことはできないか。出版できないか、と。もともとよく知られていない国の絵本である。日本の出版社での出版は無理であった。それでは、アイルランドの出版社ではどうだろうか。交渉を進めるとOKが出た。絵本の作者コルマーン・オラハリー氏が経営する出版社には、日本のゲームオタクのデザイナーさんがおられて、日本語のフォントを持っておられたのだ。比較的安価に仕上がったのが、「ルーァリー」シリーズの2冊である。

主人公ルーァリーは、おっちょこちょいな小学生である。学校に遅刻しては怒られ、下校中は犬に追われて必死に走って逃げる。ついていない1日だったが、それでもベッドに入れば、「あしたはあしたさ！おやすみなさーい！」と楽天的である。「今日を生きるのが精いっぱいなのだから、明日のことは明日考えよう」というアイルランド人気質丸出しだ。この気質は、母語であるアイルランド語の使用まで禁じられ、400年もの長い間、厳しい英国の支配下で生き抜いてきたアイルランド人の経験の裏返しであろう。

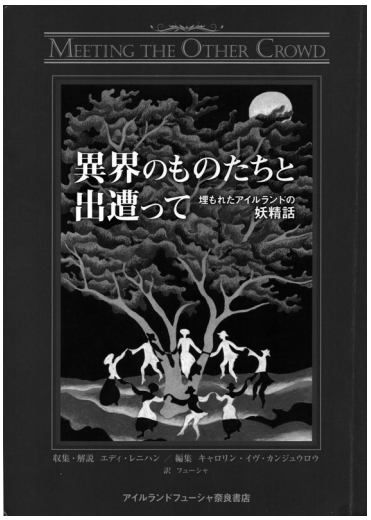
しかし、アイルランドでの出版には問題も残った。輸送費や関税が高かった。アイルランドからは、国際標準図書番号ISBNがアイルランドのものだから質問その他が届いても答えられない、日本で出版したらどうか、と示唆された。ところがISBNを取得するには、出版社である必要があった。

グループで知恵を絞った。若い会員が提案した。「私たちで出版社を作りましょう」と。赤字経営のリスクにかける覚悟を持つまでには、たいした時間もかからなかった。グループ全員がそれだけアイルランド語とアイルランド文学とアイルランドの国そのものを愛し、熱意を持っていた証拠であった。出版社の名前がなかなか決定できなかった。結局、このグループの意図を反映して、長い「アイルランドフューシャ奈良書店」ということになった。

国内第1作目は『トーィン』に

さて、第1作目の出版は何にするか。アイルランドで出版した「ルーァリー」シリーズの作者コルマーン・オラハリー氏は、教師としての経験も豊富な児童文学者であり、アイルランド語研究者でもある。神話伝説など伝承文学を青少年向けにアイルランド語でリライトし、出版している。彼の作品から、アイルランドで有名な物語『トーィン』を選んだ。日本ではゲームキャラクターでよく知られているクーフリンの武勇伝である。作画は、昨年『海の歌』というアニメで日本にも紹介されたカーツーン・サルーンが

担当した。劇画風のマンガである。次作品は？……。たまたま荒木が長い間親交のあったエディ・レニハン氏の作品『異界のものたちと出遭って』（英語から翻訳）に決めた。妖精物語には、全員が興味を持っていた。ディズニー映画の妖精たちとは全く違う怖いアイルランドの妖精たちに魅了された。不明なところはレニハン氏がメールで答えてくださった。2016年12月には、オラハリー氏の出版社が出した犬の絵本「トビー」シリーズ（トリーナ・ニヒネージェ作）を2冊、アイルランド語から翻訳して出版した。これにはアイルランド文学翻訳基金の助成も受けた。



『異界のものたちと出遭って―埋もれたアイルランドの妖精話』エディ・レニハン著／A5判・本体価格1800円

講演会や書店イベントも開催

『異界のものたちと出遭って』発刊の翌年、2016年2月にレニハン氏を招聘して、生駒市立図書館、大学のみならず、京都、広島、東京のアイルランド大使館や学校での公演を開催することができた。レニハン氏は、アイルランドはもとより世界的に有名な語り部である。その語りに多くの聴衆が魅了された。また、アイルランドフューシャ奈良書店発足のきっかけとなったコルマーン・オラハリー氏も2015年10月に招聘できた。奈良県立図書情報館や大学での講演には、予想以上の聴衆が集まった。大きな会場にもかかわらず、立ち見の人も出るくらいであった。上記二つの図書館では、企画担当の司書さんたちが私たちの出版した絵本や作家招聘に関心を示してくださったおかげで、多大の協力が得られた。公演には、奈良や生駒のおはなしの会の方の語りも加わり、レニハン氏が奈良の民話の英語版紙芝居を演ずるという本邦初の珍しい一幕もあった。また、地元の書店チェーンの啓林堂書店では、『異界のものたちと出遭って』発刊の記念イベントを開いていただき、妖精話の読み聞かせを行った。本の出版と共に、こういう読み聞かせの活動も継続できるように努力しようとグループでは考えている。

今後の予定としては、まず科研費の助成によってふたりの作家を招聘した成果と、昔話に関するアンケート集計の結果と考察、アイルランドと日本の伝承についての比較をまとめ、『アイルランドと日本の昔話を比べてみれば』（仮題）として出版、その後、現在翻訳がほぼ終わっている『挑戦的なアイルランドの女たち』（エディ・レニハン作）の校正をして、来年早々に出版したいと計画中である。また、レニハン氏を再度招聘できるようにと考慮中である。

私たちは全員が、アイルランド語の学習者である。学習の過程はなかなか遠く、マスターまでには長い年月がかかるであろう。しかし、全員がアイルランド・フリークといってもいいくらい、アイルランドの物語や風習、伝統を夢中になって学んでいる。今後息の続く限り、この活動を続けてゆきたいと思っている。また、できるならば、赤字出版を解消できたらと願っている。現在は、会員が会費を納入して、出版の費用をまかなっている状態である。だが、熱意だけは誰にも負けない。強い意志を持って、私たちは活動していく覚悟である。

最後に私たちの出版社を応援していただいている地方・小出版流通センターに心より感謝の気持ちを捧げる。

▽

「生駒のモリさんとアイルランドの妖精の塚」についてのシンポジウム（生駒民俗会主催）が7月16日（日）10:00～12:00、生駒ふるさとミュージアムにて開催されます。

生駒民俗会代表、今木義法先生と奈良アイルランド語研究会のメンバー、荒木、竹本、福本が発表する予定です。

＊

（あらき　たかこ／アイルランドフューシャ奈良書店　代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『りんてつ（水島臨海鉄道）沿線手帖　くらしきピーポー探偵団が行く！』●倉敷商工会議所青年部産学連携委員会編著

倉敷市南部に広がる工業都市水島。臨海部にはJFEスチールや三菱自動車の工場が立ち並んでいる。その水島と倉敷を結んで走るのが水島臨海鉄道である。かつて蒸気機関車が走っていた時代の汽笛の音から、地元では「ピーポー」と呼ばれて親しまれてきた。ただ同じ倉敷市内でも水島周辺は観光色が薄い土地ではある。本書はそんな水島臨海鉄道の沿線を地元の大学生や高校生たちが取材して出来上がった沿線ガイドである。取り上げられているのは飲食店や観光スポットばかりではない。信用金庫や海上保安庁まで幅広く、一見するとまとまりがないようにも見える。しかし、ふつうの観光ガイドには載ることはないであろうそれらの情報が、次第に水島という土地の像を結んでくる。読み進めていくうちに水島に暮らす人々、積み上げられた歴史にも親しみがわくだろう。水島の名前を初めて聞く人はもちろん、訪れたことのある人にとっても新しい発見のある一冊になるに違いない。

◆1080円・A5判・100頁・**吉備人出版**・岡山・2017/3刊・ISBN9784860694982

『信州の縄文時代が実はすごかったという本』●藤森英二著

本書はまず縄文時代を概観するが、焦点となるのは5500～4500年前の縄文中期、八ヶ岳を中心とした地域で隆盛を極めた井戸尻文化である。この地域では、前後の時期に比べて遺跡の数がずば抜けて多く、何よりも、蛇体把手土器や抽象文土器、顔面把手土器といった個性的で芸術作品と呼ぶにふさわしい土器群が溢れ出るように作られている。本書では、それらの土器の文様や造形の詳細を写真で確認することができる。そして、この文化の隆盛を象徴するのが、1986年に出土した縄文のビーナスであり、2000年出土の仮面の女神である。現在国宝に指定されている土偶5点のうち2点が長野県茅野市から出土したこの両土偶である。後期になると、貝塚文化で知られる関東沿岸や、遮光器土偶や亀ヶ岡式土器で知られる東北地方が異彩を放つようになっていくが、縄文中期、確かに信州・八ヶ岳山麓が何か独別な場所であったことを、本書は教えてくれる。巻末には縄文遺跡や博物館を巡るトラベルマップが付されている。

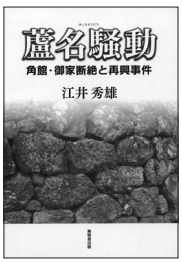
◆2160円・200mm×210mm判・135頁・**信濃毎日新聞社**・長野・2017/3刊・ISBN9784784072996

『廃村続出の時代を生きる　－南の島じまからの視点』●安渓遊地編著

人口減時代を迎え、住まれる方がいなくなった集落、すなわち「廃村」が注目されるようになってきた。それは一般に望まれない形であることから、廃村の研究は「失敗学」という側面をもっている。失敗からは、その先へとつながる多くのことを学ぶことができる。先日大学教授を退官されたばかりの編者者は、修士の頃、沖縄・西表島の廃村 鹿川（かのかわ）のフィールドワークに没頭された。明治44年に廃村となった鹿川の事例と、人口減時代に危惧される廃村現象とはどう結びつくのだろうか。廃村と真剣に向き合った編者者には、人口減時代を生きるための物差しが備わっているのであろう。本書には鹿川をはじめとする南の島々の廃村に関する膨大な記録が記されており、深読みするとその片鱗を垣間見ることができる。廃村の行きつく先は、決して絶望ではない。しかし明るい未来を切り拓くためには、廃村現象と真剣に対峙し、事実を受け止めて消化し、乗り越えてしていくしかないのだ。

◆ 2700円・Ａ５判・303頁・**南方新社**・鹿児島・2017/3刊・ISBN9784861243639

『蘆名騒動　－角館・御家断絶と再興事件』●江井秀雄著

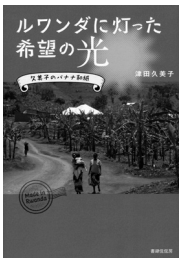


蘆名氏は、伊達氏とならぶ東北戦国大名の雄である。相模の豪族・三浦氏を祖とする由緒ある家柄であり、12世紀末に会津に移住して以来ほぼ400年続いた名族である。天正17年（1589）の摺上原の戦いで伊達正宗に敗れ、一族は滅亡した。ここまでが蘆名氏について一般的に知られていること。その後の蘆名氏が一体どうなったのか、断絶後の家臣団の行方を追ったのが本書である。

当主・義広が佐竹義重の実子だったところから秀吉から常陸・江戸崎を与えられたが、徳川氏が天下を取ると佐竹氏とともに秋田に移された。この時点で蘆名氏は佐竹氏の一家臣に成り下がる。この状況に不満を持つ会津以来の蘆名家臣が御家再興を企てた。が、佐竹氏の幕府への配慮もあってか、計画は挫折する。昭和初期、再び御家復興計画が持ち上がる。蘆名家が各地を転々とするたび、会津・仙台・角館・檜山（能代）と散っていた家臣たち。子孫らの胸に去来する複雑な感情とは…。

◆ 1836円・Ａ５判・147頁・**無明舎出版**・秋田・2017/4刊・ISBN9784895446310

『ルワンダに灯った希望の光　－久美子のバナナ和紙』●津田久美子著



“千の丘の国”と呼ばれるように、起伏に富んだ地形が特徴の、アフリカ東部の内陸部に位置するルワンダ。先住民フツ族とツチ族の関係が悪化し、1994年にジェノサイド（民族大虐殺）が起こるという悲劇もあったが、現在は新たな国家建設の途上にある。　そんなルワンダをバナナペーパー（ＢＰ）作りで支援する日本人女性が著者。高校時代から通訳を目指し、結婚後、育児が一段落してから40歳でのクウェート大使館勤務をきっかけにエチオピア大使館でも働いたのがアフリカとの関わりの端緒となる。最初はコーヒーの紹介・販売で支援していたが、さらに発展させようと、大量に捨てられていたバナナの茎を見てＢＰ作りを思いつく。さまざまな紆余曲折を経たのち、発案したＢＰランプシェードもルワンダ製品として脚光を浴びつつある。何か行動を起こすのに年齢も経験も無関係。それを裏付けるアフリカ農民支援体験記。表紙のあとに実物のＢＰが差し込まれている。

◆ 1728円・四六判・239頁・**書肆侃侃房**・福岡・2017/3刊・ISBN9784863852518

『琵琶湖を巡る鉄道　－湖西線と１０路線の四季』●清水　薫著

滋賀県は中央に琵琶湖を擁し、北部には山地が続く一方、南部は平野に田畑や都市が広がっていて、それらの織り成す風景は四季折々に違った姿を見せます。滋賀県草津市出身で鉄道写真家の著者は、JR湖西線を中心に滋賀の自然が見せる様々な表情を取り入れて撮影を行ってきました。本書はそうして今までに撮影された作品をまとめたものです。写真家になって間もない1995年の作品から、今年撮られた作品まで時間的にも幅があります。湖西線を駆け抜けた特急「雷鳥」急行「きたぐに」や寝台特急「トワイライトエクスプレス」「日本海」などに懐かしい思いを抱く方も多いのではないでしょうか。一方で近江鉄道や信楽高原鐵道などのローカル私鉄ののんびりした風景も印象的です。毎日淡々と走り続ける鉄道と共にある何気ないひとつひとつの風景から、滋賀の風土の魅力さえも引き出す写真たちは、地元を愛し長年各所に通い続けた著者だからこそ写すことができたのでしょう。

◆2376円・A５判・125頁・**サンライズ出版**・滋賀・2017/5刊・ISBN9784883256143

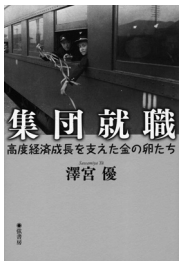
『おふみさんに続け！女性哲学者のフロンティア　－西田幾多郎の姪　高橋ふみの生涯と思想』●浅見　洋著

「女は結婚しても苦労するし、勉強を続けるのもそれ以上にきびしい。同じ苦労をするなら勉強を続けたい」。女子に学問は不要と言われた時代に自分の縁談話に対して、そう語ったと言われる女性哲学者、高橋ふみ。彼女は日本を代表する哲学者、西田幾多郎の姪で、西田の哲学を本格的にドイツに紹介した最初の日本人でもある。

石川県に生まれ､研究者としての資質を持ち、東京女子大学卒業後、女子に初めて門戸を開いた東北帝国大学へ入学、東京の自由学園で教鞭を取った後、35歳でドイツに留学。男性中心の学界の中で、まさに開拓者と呼ばれるにふさわしい女性哲学者の道を歩んだが、残念ながら志半ばにして病に倒れ、終戦目前の1945年6月に43歳の生涯を閉じる。“おふみさんに続け！”とは東京女子大の後輩たちの合言葉。そのぶれない人生は現代にも勇気を与え、何らかの生き方を示唆してくれる。付録として講演録や伯父宛の書簡を収録。

◆2160円・四六判・219頁・**ポラーノ出版**・東京・2017/3刊・ISBN9784908765087

『集団就職　－高度経済成長を支えた金の卵たち』●澤宮　優著

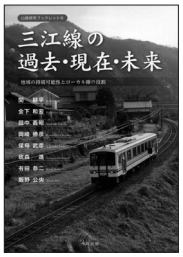


昭和30年代から50年代前半、わが国の高度経済成長を支えたのは、金の卵と呼ばれ、中卒で大都市圏に集団就職した少年少女たちであった。その応援歌として青森県出身の井沢八郎が歌った「あゝ上野駅」のイメージもあってか、東北や北関東に目が向けられがちだが、鹿児島県の中卒男子県外就職率74.5％、同女子89％を筆頭に、九州、沖縄から阪神、中京への就職が頭抜けて多いという。鹿児島から大阪に出て、後に歌手になる森進一もその一人である。働かなければ本人も家族も生きていけなかった時代、職種を選ぶ余地はなく、懸命に働き、定時制高校で学び、キャリアを積んだ者がいる一方で、著者の取材に口を閉ざすほどの辛い経験をした脱落者も少なくない。そうした人たちの人生を丹念に辿り、働くことの意味を再確認する。彼らは無名の群像とされているが、名前も人生もある一人だ、その集積が今の日本の国であるとの、愛知県瀬戸の陶磁関係者の言葉が印象的である。

◆2160円・四六判・261頁・**弦書房**・福岡・2017/5刊・ISBN9784863291515

■訂正とお詫び　小誌6月号新刊ダイジェスト欄で紹介されている【三江線の過去･現在・未来】（今井出版刊・9784866110721）に使用された書影が【三江線写真集】（同社刊）のもになっていました。関係者の方々にお詫びいたします。下記に正しい書影と書評文を改めて掲載いたします。

『三江線の過去・現在・未来　－地域の持続可能性とローカル線の役割』●関　耕平ほか著



鉄道には「乗ると便利」といった直接的な価値のほか、「地域のシンボル」などの間接的な価値がある。地域振興に一定の役割を果たしているローカル線の例は数多く見られるが、交通体系は刻々と変化しており、すべての鉄道を存続させるのは現実的なことではない。JR三江線は、広島県三次と島根県江津を結ぶローカル線で、本数は1日4～5便しかない。江の川に沿って山間を蛇行する路線図からは「いかにも効率が悪そう」と、「のんびりしていて景色が良さそう」の二つの側面が見えてくる。平成30年春の廃止が決まっているが、本州で100kmを超す路線の全廃は初めてのことで、廃線の動きの波及が懸念される。本書は、三江線の歴史から現況、沿線地域の将来などを、すでに廃止になった可部線や災害による休止から復旧した名松線の事例を交えながら、克明に刻んでいる。ローカル線の存廃問題は、効率や採算だけでは回らない、地方と都市部の関係を端的に表している。

◆1200円・A５判・161頁・**今井出版**・鳥取・2017/3刊・ISBN9784866110721

売行良好書

期間：2017年5月15日～6月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(2)『集団就職』2160円・弦書房　(3)『忘れられた人類学者（ジャパノロジスト）』2160円・忘羊社　(4)『物語の森へ』3888円・東京子ども図書館　(5)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(6)『冬のＵＦＯ・夏の怪獣』1296円・ナナロク社　(7)『子どもが本をひらくとき』1728円・ブックグローブ社　(8)『北海道でがんとともに生きる』2160円・寿郎社　(9)『日光パーフェクトガイド　改訂新版』1620円・下野新聞社　(10)『アフガン・緑の大地計画』2484円・石風社　(11)『琵琶湖を巡る鉄道』2376円・サンライズ出版　(12)『三江線の過去・現在・未来』1200円・今井出版

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(2)『昭和プロレスマガジン　４２』1000円・昭和プロレス研究室　(3)『ニホンという滅び行く国に生まれた若い君たちへ』1620円・白馬社　(4)『本の雑誌　４０９号』720円・本の雑誌社　(5)『東京かわら版　６月号』500円・東京かわら版　(6)『集団就職』2160円・弦書房　(7)『不登校は１日３分の働きかけで９９％解決する』864円・リーブル出版　(8)『日本史のまめまめしい知識　第２巻』1080円・岩田書院　(9)『人間ポンプ』1500円・フラミンゴ社　(10)『奥多摩登山詳細図（西編）』950円・吉備人出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『木村草太の憲法の新手』1296円・沖縄タイムス社　(2)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(3)『そらとぶこぎん　創刊号』500円・津軽書房　(4)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(5)『忘れられた人類学者（ジャパノロジスト）』2160円・忘羊社　(6)『官人　大伴家持』1620円・桂書房　(7)『奥多摩登山詳細図（東編）　大岳山・御嶽山・川苔山・棒ノ嶺　全１３０コース』950円・吉備人出版　(8)『熊本地震２０１６の記憶』1944円・弦書房　(9)『満洲文化物語』1512円・中国書店（集広舎）　(10)『鶴屋駅弁当ものがたり』1620円・熊本日日新聞社　(11)『集団就職』2160円・弦書房　(12)『獣医学の狩人たち』2592円・大阪公立大学共同出版会

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

児童書販売と出版のクレヨンハウスによる**「夏の学校2017」**が8/5（土）～8/7（月）開催予定です。講師及び講義内容は以下の通りです。

◆なかにし礼（作詞家・作家）「最後の小説『夜の歌』について」◆新沢としひこ（シンガーソングライター）「世界中の子どもたちが」◆とよたかずひこ（絵本作家）「絵本づくり、一所けんめい」◆中村哲（医師、ペシャワール会現地代表、ピースジャパンメディカルサービス総院長）「アフガニスタンに甦る水と、緑の大地」◆西牧茅子（絵本作家）「子ども―絵本―わたし」◆長谷川義史（絵本作家）「絵本で元気に！」◆松元ヒロ（コメディアン）「アベくんと憲法くん」◆落合恵子（作家、クレヨンハウス主催）「わたしの中のあばれ馬」

他に二つの分科会があります。詳細は「クレヨンハウス夏の学校」でネット検索を。

●会場・東武ホテルレバント東京（墨田区錦糸1-2-2）●参加費１名46,300円（２泊３日５食・受講料・施設使用料・旅行保険含む）●定員大人400名

なお講師陣のお一人、中村哲氏は今回の講義と同テーマの**【アフガン・緑の大地計画】**（石風社刊・2300円+税）を刊行されたばかりです。

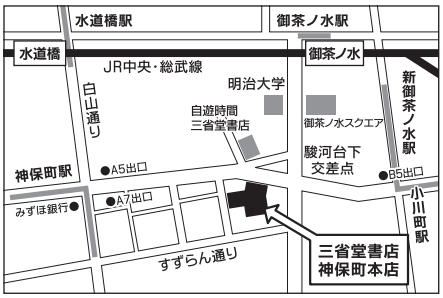
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。

◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。

◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。